

福岡観世会定期能

平成三十年(第二回)



能 景 かげ

清 きよ

多久島利之

狂言

寝音曲 ね おんぎょく

野村 万禄

舞囃子

葛 かづら

城 き

大和舞

坂口 信男

能

富士太鼓 ふじ たいこ

森本 哲郎



とき 12月1日(土) 午後1時始
ところ 大濠公園能楽堂
入場券 自由席 7,000円
発売所 大濠公園能楽堂事務所
092-715-2155

景

玉 鬢 長宗 敦子 松田美栄子
占キリ 菊本 澄代 地謡 菊本 美貴
歌 能 木月 晶子

多久島法子
久保誠一郎
多久島利之
森 常好

白坂 信行 相原 一彦
飯富 章宏

後見 坂口 貴信
観世 清和

地謡 関根 祥丸 今村 一夫
井内 政徳 坂口 信男
今村嘉太郎 大槻 文蔵
山口剛一郎 今村 嘉伸

△休憩十五分△

寝音曲

葛城

大和舞

舞 野村 万禄 吉住 講
舞 離子 坂口 信男 白坂 信行 田中 達
幸 正佳 森田 徳和

通 盛 山口剛一郎 関根 祥丸
大江 山 鷹尾 維教 鷹尾 章弘
遊 行 柳 観世 清和 大西 礼久
邯鄲 大槻 文蔵 久保誠一郎

△休憩十五分△

富士太鼓

間

今村 純 能 白坂 保行 森田 徳和
森本 哲郎 森 常太郎 幸 正佳
野村 万禄

後見 今村 一夫 小倉要二郎 武富 昭
山本 章弘 地謡 今村嘉太郎 大西 礼久
鷹尾 章弘 鷹尾 章弘 今村 嘉伸 維教

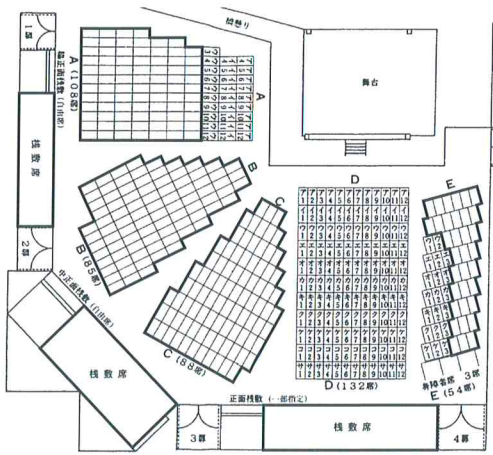
附祝言

◆景清

平家の勇将悪七兵衛景清といえ、一族が没落した後も、頼朝暗殺を企て続け、挙句に「源氏の世は見たくない」と、自らの両眼をえぐり捨てた男として、人々に強烈な印象を与えてきました。
舞台にてはまず、景清の娘人丸とその従者が、景清が日向にいるという噂を聞き、鎌倉から訪ねてきた場面から始まります。
流人となり、今は乞食となつている景清は、あばら家に住んでいます。一度は通り過ぎた人丸一行ですが、親切な里人のとりなしにより、再度草庵を訪れ、親子の対面となります。娘に請われて語られる屋島の合戦、敵の三保谷四郎との力競べでは、若き頃の躍動感溢れる剛強な武将像を彷彿とさせます。
しかし、語りを終えた景清は、我が亡き後の回向を頼み、娘はその言葉を胸に立ち去ります。
父娘対面の能ではありませんが、却つて非情と無常の思いが迫ります。

◆富士太鼓

萩原院主催の管弦の楽に、住吉大社所属の富士という太鼓の楽人が、役を望み、上洛します。ところが、天王寺所属の浅間というの楽人が既に召されておりました。「信濃なる浅間の山も燃ゆなれば富士の煙のかいやならん(当時も煙の量は富士山より浅間山が上でした)」という古歌を理由に、やはり浅間が上だと宮中の意向は変わりませんでした。浅間は、富士の態度に憤慨し、宿に押し入って富士を殺してしまします。
能はここから始まります。
富士の妻は夢見が悪いため、娘を連れ、都にやって参ります。そこで事の顛末を聞き、形見の夫の衣裳を渡されます。
嘆き悲しむ妻は、夫の形見を身に纏い、狂おしく、太鼓こそ夫の敵だと叫び、娘にも父の敵だと太鼓を打たせします。するといつしか亡き夫の霊が乗り移り、狂乱の態で太鼓を打ち、舞を舞います。自分を殺した相手よりも、晴れの太鼓が打てなかつたことへの恨みが勝るのは、芸道に対する富士の執念でしょうか。
乱れ心が静まり女姿に立ち戻つた妻は、娘と共に住吉へと帰つてゆくのでした。



※番号が書かれていない席は自由席です
※棧敷席は自由席です

平成三十一年度予告

五月十八日(土)

十二月七日(土)